MR1期(麻しん・風しん混合ワクチン)接種について

麻しん

・麻しん(はしか)は、**感染力が極めて強く、免疫がなければほぼ100%の人がかかる病気**です。

・発熱、せき、鼻汁や赤い発疹が特徴 です。

・肺炎、中耳炎を合併しやすく、脳炎を合併し医療が発達した先進国であっても、かかった人の約1,000人に1人が死亡する重症の病気です。

風しん

・風しんは軽いかぜ症状で始まり、発疹、発熱、リンパ節腫脹などが主な症状です。

・大人がかかると重症化しやすいと言われています。

・妊娠早期に風しんにかかると心臓病、白内障、聴力障害等の障害を持った「先天性風しん症候群」の子どもが生まれる可能性があります。

対象者

1歳から2歳の誕生日の前日までの者

接種間隔
接種回数

麻しんと風しん両方のワクチンを効率よく接種するため
2つのワクチンを混合(MRワクチン)で1回接種

注意点

麻しんまたは風しんに既に罹っていても、MRワクチンを受けることができます。
また、麻しんか風しんかのどちらかを選び、単独ワクチンで接種することもできますので、かかりつけ医と相談をしてください。

副反応

主な副反応:発熱や発疹、かゆみなど
重い副反応:まれにアナフィラキシー様症状、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれんなど

小児肺炎球菌(追加)接種について

初回接種が終了後、免疫力を高めるためにもう一度接種するのが、**追加免疫**です。

肺炎球菌について

肺炎球菌は、鼻やのどに感染し、中耳炎、副鼻腔炎などの気道感染症や、ときに化膿性髄膜炎や肺炎など重い全身感染症を引き起こします。特に、肺炎球菌による細菌性髄膜炎は、初期症状がかぜに似ているため判別が難しいだけではなく、死亡したり後遺症を残したりすることがあります。

対象者

1歳から5歳の誕生日の前日までの者

接種間隔
接種回数

初回3回目接種終了後、60日以上の間隔をおいて
標準的には1歳から1歳3か月までの間に1回接種

副反応

主な副反応:接種部位の発赤、腫れ、しこり、疼痛などの局所反応、発熱(数%)
重い副反応:まれにショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病など

★令和6年10月1日より、小児肺炎球菌ワクチン15価に加え20価ワクチンが定期接種化されました。小児肺炎球菌ワクチンの15価ワクチンを接種済の人は、原則的に15価ワクチンを引き続き接種します。接種するワクチンについては、かかりつけ医に確認してください。